

Nutrition Support Times

2011日本静脈経腸栄養学会(JSPEN)開催

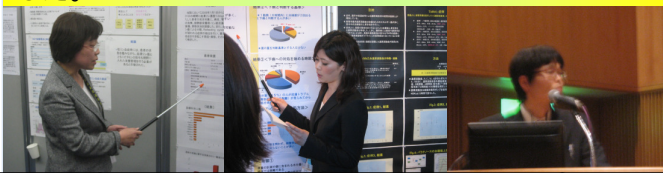
2011JSPEN(日本静脈経腸栄養学会)が2月17・18日に開催されました。毎年のごとく人また人。多職種が集まる参加者の多い学会で、どこの会場も満杯状態。全国からNSTに燃えている？人たちが名古屋に集まりました。当院もチェアマンをはじめ熱いメンバーが参加しました。日頃の活動の反省とこれからの目標を肌身に感じた2日間でした。

当院NSTからは5題の演題を発表しました。チェアマンの東別府先生が『世界の中の日本』というセッションの中で、「critical care nutrition international survey2009に参加して」という演題で発表しました。参加した病院は日本では当院だけということでした。早期経腸栄養は世界の国々では48時間以内に行われているが、当院はまだまだ遅れていることがよくわかりました。薬剤部からは西岡さんが重度の低リン血症患者について、リンの補充がどのように行われていたかや、refeeding Syndromeの危険性をNSTが啓発し介入していくことの必要性について発表しました。



看護師さんでは9西のサテライトチームから山田さんが、経腸栄養使用患者の下痢の評価について発表しました。下痢というのははまだ決まった定義がないため、人によって泥状や軟便、水様下痢という判断基準がバラバラです。見解を統一することで経腸栄養剤の選択や投与法を変更し、スキントラブルやその他合併症を予防しようという内容です。いつも苦労されていることが本当によくわかりました。管理栄養士からは2題岩本さんと有岡が発表しました。岩本さんは神経性食思不振症では、循環動態に配慮した水分制限と反応性低血糖に十分注意した栄養管理が必要であること、有岡は摂取エネルギーを超えた消費を10年間継続し、筋肉障害等を発症したと思われる症例について発表しました。

日頃より努力していることをNSTの成果として形にしたわけですが、我々の理想からはまだまだほど遠いものです。しかし、今後もコツコツと積み上げていきたいと思っております。皆さんの協力が必要です。栄養はすべての患者さんに必要で基本です。興味があれば是非参加してください。今後ともよろしくお願いま



↑ 当院の代表としてみんながんばりました。



それってどうなの？

院内でも栄養を投与しないといけないんだという認識は、なんとなく広がってきた印象があるのは私だけでしょうか？

中身は??というときはありますが、若い先生方を中心にきっちり入れようという雰囲気はあるようです。皆さんがよく末梢輸液で使っているソルデム3Aですが、栄養的にはうす～い砂糖液と思ってくださいね。なんとって1000ml入ってもコンビニおにぎり半分ぐらいのカロリーしかないんです。これは以前のNstimesにも書いていますが、覚えておいてくださいね。

栄養を入れるときはそんな糖質だけでなく、蛋白質や脂肪も必ず頭においてください。

おつかれさま

NSTのみんなで打ち上げをしました。忙しい中努力した成果の一部を、この学会で発表することはきっと明日のNSTの糧となることでしょう。皆さんに感謝いたします。



NCM 講演会予定

月日	内容	担当
3/18	栄養とリハビリテーション	横浜市立大学センター病院 若林先生
3/24	腎障害と栄養	居神先生

NSTカンファレンス・回診

毎週水曜日 pm1:00～ 8北(861)NSTカンファレンスルーム